

日本大学工学部

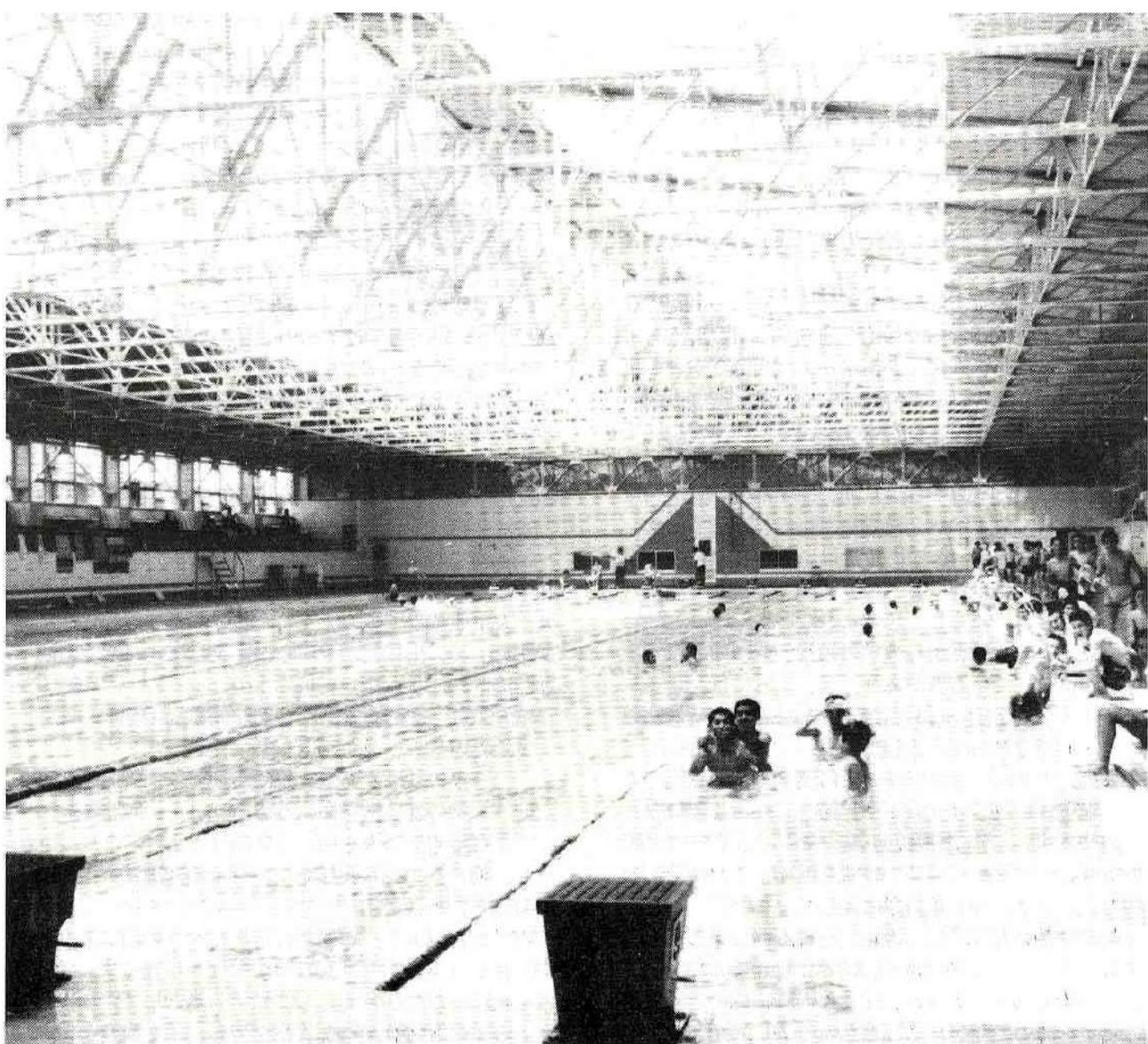
# 校友会報

第 42 号

昭和 58 年 9 月 1 日

## 目 次

ごあいさつ(工学部長、校友会長).....	2
昭和58年度第26回通常総会報告.....	3 ~ 4
生産性向上活動に於ける 考え方とその手法について.....	5 ~ 7
同窓会・支部だより.....	8 ~ 9
校友短信.....	9
白夜の北欧.....	10
キャンパスミニメモ.....	11
昭和59年度工学部入学試験.....	12
事務局だよりなど	



### 〔屋内プールに改装〕

大講堂の屋根を改造したときに派生した、鉄骨トラスを利用して、水泳プールに屋根を新設した。

屋根面には、採光と採暖のために、ポリカーボネート樹脂板と網入ガラスを使用。室内プール調整、排気ファン、拡声装置等を設備して、屋内プールとして、景観を一新した。



## ごあいさつ

日本大学工学部長  
廣川友雄

本年4月23日、東京、市ヶ谷の日本大学会館で工学部の校友会総会が開催され、引き続いて懇親会が催されたのは諸君御存知の通りですが、当日、本部からは佐藤常務理事、加藤理工学部長、八木理工学部校友会長など来賓として見えられ、校友諸君も多数参会されて盛大でした。私も出席の挨拶を致しましたが、多くのなつかしい卒業生諸君とお会いできて、大変楽しい時を過ごさせてもらいました。殊に古い卒業生で一目で誰と判る人が多かったのは実にうれしいことでした。

古い人達はそれぞれの分野で指導的立場に立って活躍しておられるし、新らしい人達は元気一杯に勵んでおられる様子でたのもしい限りでした。

特に会場の日本大学会館の設計、施工に当ったのが工学部校友の諸君であったことは、この総会、懇親会を、この場所で行ったことを更に意義あるものとしました。

さて、その後も古い卒業生で母校を訪ねる者が次々とありますか、新幹線で郡山を通過するだけの方も可成りあると思われます。安積永盛当りを過ぎるとき東側を見ると、先づ目立つ時計塔を中心に学園が広がっているのが見えます。そのようなときには気をつけて御覧になって、学園の広がりを楽しんで下さい。

今年も、6月9日から3日間、工学部で学会が持たされました。土質工学研究発表会でして、参加者は約1,200名で盛会でした。この中には、工学部に勤務している校友の諸君以外にも、外で活躍中の校友の諸君の参加も見られ、頗もしく思いました。

現在、中国や韓国から大学の教授、或は助教授で工学部に留学している者があり、又、4月にはマレーシア科学大学の学生一行34名が本学部を訪れ、研修会館に一泊して懇親を深めました。

また、ポリマーコンクリートに関する協同研究のため、本年はソ連の研究者が本学部を訪れる事になりました。次第に国際色が濃くなって行く中で、先生方或は大学院生で海外で研究を進め、或は学会に出席している者が毎年相当数に達しています。

校友会報にも海外からの便りを見る機会が多くなって参りました。技術の面では世界に対し指導的な立場に立つ面もあることゆえ、正常な人間関係の上に立って親交を深めてゆかれることを希望致します。

(日本大学教授、工学部校友会顧問)



## ごあいさつ

日本大学工学部校友会長  
武田仁幸

校友諸兄、お変わりなくお暮しのことと存じます。

今日また会報第42号を皆々様にお届け出来ることを心から喜ぶと共に42号目と言う数に驚きと嬉しさを感じます。人間も42歳にて昔から初老などと言われ一つの節目を感じさせたのですが、今は熟年と言われる歳でございます。40~50歳は鼻タレ小僧、等とも言われております。我々校友会はまだ若さで一杯です。どうぞ良き会、良き会報にする為諸兄の近況等をお知らせ下さい。

本年度は主に会員相互の親睦を計るべく、次の事業を行いたいと思っております。

第一、第26回通常総会を関東地方を中心として、新装の日本大学会館で懇親会を兼ねて行う。

第二、現在の4支部、2支会も充実しましたので、支部を一つ、支会を二つ増したい。候補地は、四国支部、沖縄、山口、各支会。

第三、その他、総会に於いて決定されました諸事業  
“母校を訪ねる会” “在校生への助成”

私達本部役員一同は目的達成のため種々、努力しておりますので宜しくご協力方お願いしたい。

郡山は近くなりました。私も各支部総会に出席させていただきましたが、東北新幹線が出来まして、日本がこんなに狭くなったのかとつくづく思い知らされます。九州支部までは5時間、北海道支部まで4時間、四国高松まで4時間半です。学園祭と時を同じくする“母校を訪ねる会”には是非出席して下さい。

私達の心の故郷であります上野駅が7月28日で開業百年を迎えると聞きました。百年の間には、関東大震災、大東亜戦争の戦火をくぐり抜け、集団就職の少女少女を、又、出稼ぎの人達を迎えて送った上野駅、思い出されてならない石川啄木の

“ふるさとのなまりなつかし停車場の…”

ではないでしょうか。

一年の計は麦を植えるにあり、

十年の計は木を植えるにあり、

百年の計は人を植えるにあり、

と、物の本で読みましたが、百年の大計は人を造るにあると言われます。

明治教育以来百年が過ぎ、21世紀が目の前にあります。我が日本大学も創立百年があと6年後です。國の名を冠にいただき名実ともに私学の雄として全国に散在する50余万の校友達と誇りを持ち、手を取り合って国土発展に御尽力下さい。

末筆ながら、今度の日本海中部地震、山陰地方の災害にあわれました皆々様に衷心よりお見舞い申し上げ、一日もはやい復旧と御健勝をお祈りいたします。

(土木工学科3回卒、東和工業株)

# 10年ぶりの東京開催 昭和58年度第26回通常総会報告

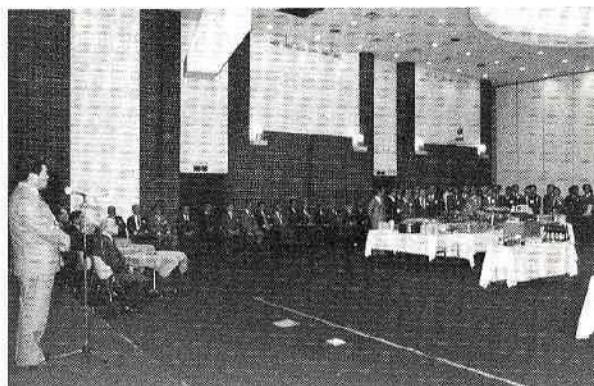
第26回通常総会は、4月23日(土)午後2時より、昨年7月に完成したばかりの「日本大学会館」(東京、市ヶ谷)において、10年ぶり、東京開催となり、会員177名の出席のもとに行われた。

総会は半沢副会長の開会の辞に始まり、武田会長が昨年総合名簿を発行することができたこと、今回の総会を東京にて開催するにあたり、学部長先生のご協力



をいただき、約30名の先生方にご出席いただいたこと、更に総会開催にあたり、古村東京支部長外役員の皆さんのご協力、お骨折りをいただいたこと、それぞれに深く感謝の意を表し、本日は久しぶりにお会いする方々も多数おられるので、懇親会に充分時間をとりたいので、総会の進行にご協力を得たいと、明日は統一地方選挙日のため出席できない方も多数おりますことは残念ですが、お帰りになり、お会いになりましたら宣教くお伝え下さいと、終りにあたり、遠く九州、名古屋、郡山等より出席された方々へお礼を述べ、本年度も皆様の御協力によって会務を無事に遂行したいと挨拶、次に議長の選出に入り、事務局一任とのことで、石崎光隆氏(土3回)が選出され、書記に新田彦文(土25回)、佐藤幸雄(建31回)、議事録署名人に、佐藤司(土5回)、上野伸一(建20回)の各氏がそれぞれ選出され、議長挨拶の後、議事に入った。

議事内容下記の通り



報告第1号 昭和57年度会務報告について

承認第1号 昭和57年度一般会計収支決算について

承認第2号 昭和57年度特別会計収支決算について

議案第1号 昭和58年度事業計画について

議案第2号 昭和58年度一般会計収支予算について

議案第3号 昭和58年度特別会計収支予算について

議事の進行と結果は次の通り。

報告第1号：佐藤事務局長より別紙総会要項2頁の会務の状況について説明報告あり、特に質疑なく、異議なく承認された。承認第1号と承認2号：以上一括して、小栗経理部長より別紙総会要項3頁～6頁の決算書内容の説明報告あり、引続き、会計監査を代表して木村圭二氏(建3回)が4月7日事務局にて監査をした



結果、適正であった旨報告がなされた。特に質疑なく、異議なく承認された。次に議案第1号、議案第2号、議案第3号について一括審議する様議場会員から、提案され、承認されたので、一括審議となり、西村事業部長より別紙総会要項8頁の事業計画(案)について、半沢副会長より9頁～11頁の予算書(案)について、それぞれ提案説明があり、審議の結果特に質疑なく、提案通り、異議なく承認された。その他について、議長から提案がなされたが、特になく、全議案の審議を終了し、閉会の辞を武藤副会長が行ない、第26回通常総会を閉じた。引続き懇親会まで、広川工学部長の学

園、学生の今昔、想い出、学部の近況等について講話をしていただいた。

引き続き懇親会に入り、会長挨拶の後、日本大学本部佐藤常蔵常務理事をはじめ、加藤 渉理工学部部長、広川友雄工学部部長の来賓の祝辞を載せ、次に佐藤事務局長より本日出席された来賓の方々と祝電の披露があり、石田啓二工学部事務局長の音頭で乾杯、祝宴に入った。会場は当会館自慢の特別の料理が盛況並べられた。テーブルを囲んで、恩師、先輩、後輩が入りみだれる中で、女性先輩の出席が一段と華やかさを加

えた。久しぶりの再会で、目を潤ませる光景もみられ、名刺の交換、記念写真にポーズをとる姿は、年令差を感じさせない、なごやかなひとときであった。

大いに飲み、大いに語り、時の過ぎるのも忘れた、昭和58年度総会は、全員で校歌を合唱し、古村東京支部長の音頭で万歳三唱し、盛会のうちに閉会となつた。

### 昭和57年度一般会計収支決算書

#### 歳 入

単位円 △……減

款項	種 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	附記
会 費	1 終身会費	5,000	5,579,000	5,574,000	
	2 会 金	10,000	11,870,000	11,860,000	
	計	15,000	17,449,000	17,434,000	
繰越金	3 前年度繰越金	19,387,403	19,387,403	0	
	計	19,387,403	19,387,403	0	
	4 前年度特別会計 より繰入金	14,755	14,755	0	
繰入金	5 基本財産より繰入金	3,620,000	3,620,000	0	
	計	3,634,755	3,634,755	0	
	6 手 金 利 手	500,000	533,711	33,711	
淮 入	7 職員負担金	300,000	309,832	9,832	
	8 雇 収 入	12,842	3,310	△ 9,532	
	計	812,842	846,853	34,011	
合 計		23,850,000	41,318,011	17,468,011	

#### 歳 出

款項	種 目	予 算 額	流用増減額	予 算 現 額	決 算 額	比較増減	附記
1	給 料 手 当	3,670,000	△ 7,634	3,662,366	3,632,783	△ 29,583	保険料へ
2	保 険 料	400,000	7,634	497,634	497,634	0	保険料へ
3	交 通 費	520,000	0	520,000	518,000	△ 2,000	
4	旅 費	80,000	0	80,000	68,400	△ 11,600	
5	交 機 費	400,000	0	400,000	339,980	△ 60,020	
6	消 耗 品 費	130,000	0	130,000	128,758	△ 1,242	
7	備 品 費	150,000	0	150,000	144,000	△ 6,000	
8	印 刷 製 本 費	230,000	0	230,000	219,700	△ 10,300	
9	通 信 連 搾 費	230,000	39,470	319,470	319,470	0	予算費より
10	修 着 雑 手 費	10,000	0	10,000	0	△ 10,000	
11	光 热 水 費	40,000	0	40,000	30,000	△ 10,000	
12	雑 費	150,000	0	150,000	134,542	△ 15,458	
	計	6,150,000	39,470	6,189,470	6,033,267	△ 156,203	
13	組織月報費	500,000	0	500,000	410,000	△ 90,000	
14	会報発行費	4,370,000	0	4,370,000	4,362,810	△ 7,190	
15	会員管理費	3,400,000	135,663	3,535,663	3,535,603	0	予算費より
16	名簿作成費	450,000	0	450,000	420,230	△ 29,770	
17	F宿泊費	10,000	0	10,000	8,142	△ 1,858	
18	図書購入費	500,000	0	500,000	500,000	0	
19	式 典 費	2,150,000	12,300	2,162,300	2,162,300	0	予算費より
20	母校訪問費	300,000	0	300,000	196,270	△ 3,730	
21	奨励補助授賞費	750,000	0	750,000	750,000	0	
22	旅 費	550,000	△ 12,300	537,700	392,040	△ 145,660	式典費へ
	計	12,880,000	135,663	13,015,663	12,737,455	△ 278,208	

款項	種 目	予 算 額	流用増減額	予 算 現 額	決 算 額	比較増減	附記
会 費	23 総 会 費	500,000	0	500,000	488,776	△ 1,224	
24 役員会費	450,000	△ 2,087	447,913	447,910	△ 303	旅費へ	
25 連絡協議会費	500,000	△ 44,187	455,817	455,817	0		
26 旅 費	650,000	46,270	596,270	596,270	0	旅費へ	
費 計		2,100,000	0	2,100,000	2,097,873	△ 2,127	
総 合	27 組合運営費積立金 預り金正味差金	220,000	0	220,000	214,800	△ 5,200	
	計	220,000	0	220,000	214,800	△ 5,200	
積 立 金	28 積 立 金	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0	
	計	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0	
予 備 費	29 予 備 費	500,000	△ 175,133	324,867	0	△ 324,867	旅費へ
	計	500,000	△ 175,133	324,867	0	△ 324,867	旅費へ
	合 計	23,850,000	0	23,850,000	23,083,395	△ 766,605	

歳 入 額 41,318,011円  
歳 出 額 23,083,395円  
差引残額 18,234,616円を翌年度へ繰越するものとする。

### 昭和57年版会員総合名簿発行事業特別会計収支決算書

歳 入

単位円 △……減

款項	種 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	附記
名簿代金	1 名簿代金	5,220,000	6,173,700	953,700	
	計	5,220,000	6,173,700	953,700	
淮 入	2 広告収入	300,000	1,039,600	739,600	
	3 雇 収 入	10,000	48,111	38,111	
	計	310,000	1,087,711	777,711	
	合 計	5,530,000	7,261,411	1,731,411	

#### 歳 出

款項	種 目	予 算 額	流用増減額	予 算 現 額	決 算 額	比較増減	附記
事 事	1 貨 - 金	210,000	5,250	215,250	215,250	0	手賃費より
業	2 消耗品費	30,000	222,650	252,650	252,650	0	
	3 印刷製本費	3,750,000	0	3,750,000	3,690,653	△ 59,347	
	4 通信運搬費	750,000	11,600	771,600	771,600	0	手賃費より
	5 委託料	520,000	0	520,000	513,428	△ 6,572	
	計	5,270,000	239,500	5,569,500	5,443,581	△ 65,919	
予 備 費	6 予 備 費	250,000	△ 239,500	20,500	0	△ 20,500	旅費へ
	計	250,000	△ 239,500	20,500	0	△ 20,500	旅費へ
	合 計	5,530,000	0	5,530,000	5,443,581	△ 86,419	

歳 入 額 7,261,411円  
歳 出 額 5,443,581円  
差引残額 1,817,830円を翌年度一般会計へ繰越するものとする。

### 財産の現況(昭和58年3月31日現在)

基本財産	引当財産	運用財産	合 計
11,341,068円	1,409,468円	20,052,446円	32,802,983円

# 生産性向上活動に於ける考え方とその一手法に就いて

クラリオン㈱常務取締役生産本部長

宗像 大三路



まえがき

1980年代は乱気流の時代と言ふに表現される場合が多い。高度経済成長の時代の終りを告げただけでなく、企業をとりまく環境要因には予期せぬリスクが至るところに待ち伏せしている。

このような不透明な企業環境のもとで、企業の継続的成長を実現する手段は、その企業活動に於けるトータルな固定費生産性の向上にあると思料する。従って当社において今日迄の、IE活動を基本とした生産効率向上による原価低減を目標に、目標管理システムの導入と、その実践の一端を紹介する。導入に当っては、日産自動車㈱及び関連企業で構成されている宝会グループのIE活動に、その基盤をおいていますが、校友諸兄の御恩料を、お願ひする次第であります。

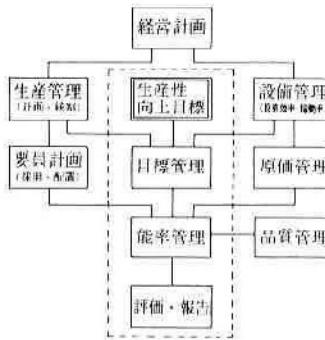
## 1. 目標管理システムの概念

### (1)システムの流れと考え方

生産性向上活動の要素として、労務費の低減が一義的に考えられるが、この事は原価低減活動へ直結する。企業は年度の利潤を追求するに、年間10~20%以上の生産性向上が計られなければ、昨今の企業存続するベースとしての環境に耐えられない情勢化に有ります。そのための具現的活動として、生産性の向上、原価低減活動を推進すべく能率管理が有ります。IE活動の基礎とも云うべき、生産の三要素である、人、物(材料)、設備の状況を定量的、科学的に把握し、解析、評価して生産性向上ロスを最少限にする活動であると言つても過言では有りません。又別な角度から見ると、作業の標準時間を設定して、この標準時間にいかに近づけるかと云う活動でも有ります。しかし能率管理は、いかに効率的展開をするかと云う活動ですから限界が有り、ややもすると後追い的な生産性向上活動となってしまう恐いが有ります。目標管理システムは、能率管理の上位システムとして、生産性向上活動を経営計画に基づき、計画時より、あらかじめ、課題、内容等を吟味し、整理して計画性を持たせた活動で有ります。更に別な見方をするならば、その活動の主体部分は、今迄に設定された作業の標準時間を技術改革及び作業改善技術をもって、どの位、標準時間を低減出来得るかと云う活動でも有ります。基本的な活動展開概要は以上述べた様な内容で有りますが、当社では、更に拡大解釈し、目標管理活動として、APA活動と名付け活動展開しています。この活動の主旨は、後項

にて詳細に説明しますが、どの様な小さな問題事項も活動の範囲に包含して、且つ生産活動に從事する全員で推進させ、システム化を計る活動で有ります。目標管理システムの概念を図式化すると、基本的構想として次の図の点線内を表わしています。

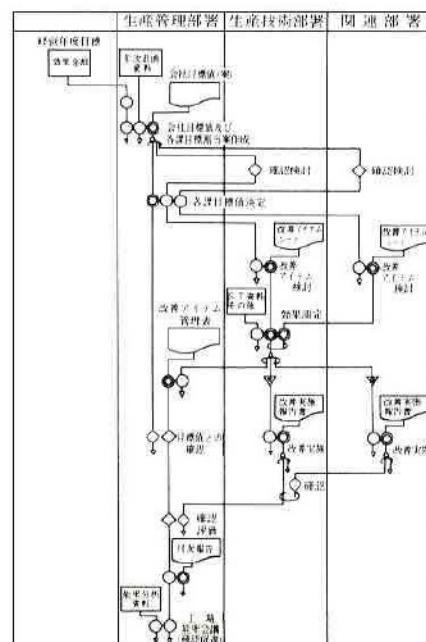
### 〈目標管理システムの概念〉



### (2)目標管理の狙い

この管理システムの主眼は、当然生産性向上を計る事に主体をおいているが、更に活動の狙いとするところは、目的を一つとした全部門の横断的組織活動の位相合せ、経営目標に照準を合せた合理化活動、又経営業務に於ける定着化、永続化等企業活動に於けるシステムの活性化を含め有機的に展開する事を狙いとしている。当社で実践展開しているAPA活動を紹介する前に能率管理システムを簡単に説明しておきます。

### 〈当社に於ける具体的展開フロー〉

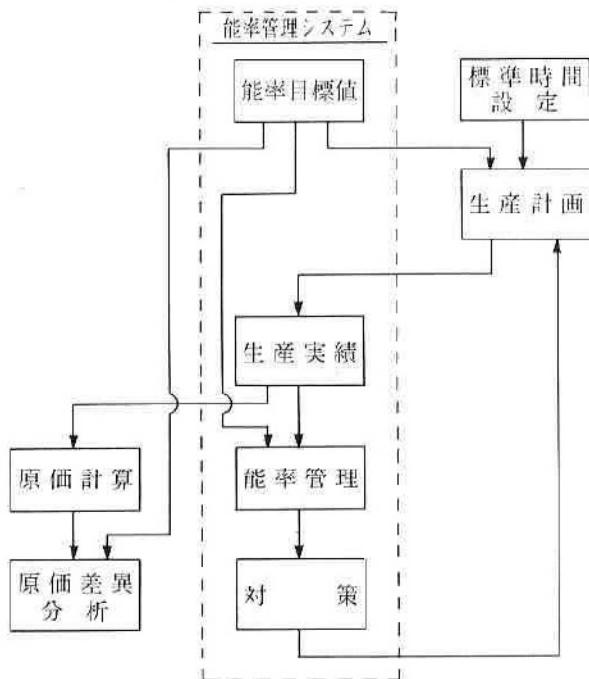


## 2 能率管理システム概要

### (1) 管理システムと機能関連図

能率管理は、生産活動に於ける生産改善活動で有り、いかに能率を向上させ、標準時間に近づける事が出来るか、且つ正常に水準化を保つための総合的な管理活動で有ります。そして能率管理は次の3つの活動を、基本としています。

- a ) 標準時間の設定
- b ) 能率の管理及び評価
- c ) 対策及びフォロー活動



## 3、実践展開としての“APA”活動

### (1) APA活動の意義

当社は、従来能率向上活動を展開してきたが、より一層の原価低減活動を計るべくインパクトを機に、目標管理を導入した。能率向上活動及び目標管理システムの概念と基本的考え方については、これまで記述してきたが、具現的実践活動として導入するにはもう少し形式を変えて展開してゆくため、特に“APA”活動と名付け展開した。APAとは目標管理、能率管理を融合し、更に拡大解釈し、生産活動に於ける全体的活動を包含した活動に出来ないか、と云う観点に立ち、次の事柄を考慮したシステムで構成されています。

- a ) 改善提案活動との連携
- b ) 小集団活動との連携
- c ) 品質向上プロジェクトとの連携
- d ) その他の活動との融合

### (2) APAとその目的

APAとは生産活動に於いて発生する

全ての (All) 事象に問題意識を持ち  
生産性(Productivity)を阻害する要因に  
挑戦 (Attack) して、問題解決を図る

その効果を、生産性向上に貢献させる事を目的としている。

### (3) 目標管理とAPA活動の融合

生産部門に於ける展開内容を強化するため、ライン改善活動を含め、総合的な改善活動をAPA活動として位置付ける。又能率会議及びAPA活動会議は、各種改善活動のフォローアップ体制を整え、目標管理とAPA活動を有機的に結び付ける活動とする。又これらの展開に際し、目標管理展開と併せて他部門への牽引する活動体として展開させる。

### (4) APA活動概要

生産性向上活動に當り、機動性に富んだ改善活動を強力に展開する事で、既存品質改善活動の活性化を図り、同時に生産部門にIE活動として定着化、永続化、する事を狙いとしている。具体的には2つの活動から成り立っている。

- a ) APA機動班及びAPAセンターの設置  
(組織強化を狙いとする。)
- b ) APA活動会議の設定及び現場ミーティングの制度的充実を計る。

### (5) APA機動班の活動内容

APA機動班は各製造課長を統括責任者とし、その直属の改善活動遂行集団とする。(以下 機動班と呼ぶ)  
機動班は、生産活動に於いて品質、材料、工程等の分野に発生する問題解決のアクションを起すため、製造担当スタッフ全員で編成する。

#### 〈機動班の活動内容〉

- a ) テーマの選定及び目標設定
- b ) 活動計画立案
- c ) 調査分析
- d ) 改善効果の確認とフォロー活動
- e ) 対外折衝、連絡
- f ) 教育、指導、動機付(対作業者)
- g ) 結果報告

### (6) APAセンターの活動内容とその役割

APAセンターは活動遂行上の事務局組織で有る。

#### 〈センターの活動内容〉

- a ) 機動班活動の促進フォロー
- b ) 機動班活動の評価、報告
- c ) 各種管理情報の収集と提供
- d ) 各種教育、研修の計画及び実施
- e ) PR活動、その他

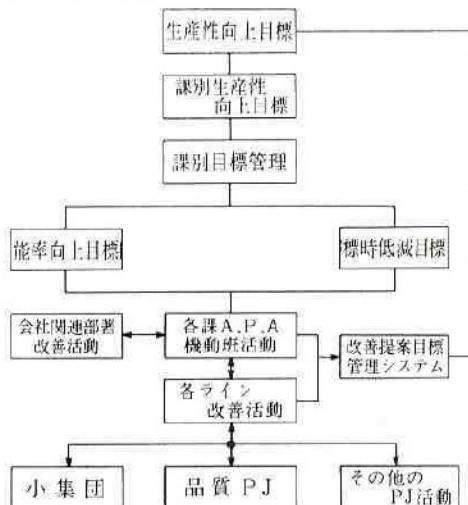
## (7)運営会議体

会議体	出席者	内 容
工場A.P.A活動会議	議長：工場長 ・機動班総括責任者 ・事務局長	・各課機動班活動の進捗確認と活動方向性の検討 ・各種管理指標面での効果確認
各課A.P.A活動会議	議長：機動班(總)責任者 ・機動班長 ・担当事務局員	・各機動班活動の進捗確認と活動方向性の検討 ・各種管理指標面での効果確認
ラインミーティング	議長：ライン長 ・ライン作業従事者 ・機動班(班長、担当班員)	・各種教育、研修 ・機動班活動状況の報告 ・テーマ改善アイテム収集活動

A.P.A活動の会議体は能率管理システムの会議体に、直結させる。これにより他の管理システムとも間接的に繋がり、機動班のテーマが全社的テーマへと拡大され、組織的横断活動として展開される。

## (8)A.P.A活動とシステム

### 〈システム図〉



## (9)A.P.A活動の特徴

- a)目標管理と直接的に結びつき、企業の経営計画を達成する為の改善活動である。
- b)各製造課別に機動班を編成し、現場に密着した能率向上活動が展開出来る。
- c)トップダウンの目標及び改善施策ばかりでなく改善提案活動、小集団活動等と直結し有機的な

活動の活性化が図れる。

- d)機動班活動をバックアップする目的で、能率会議及び機動班会議にてフォロー出来る。

## (10)活動目的と効果

製造部門が前向きに推進する事により、あらゆる環境の変化に対して対応が可能で、且つ効率的な製造部門を作り上げる事を目的とし、問題意識の高揚、改善活動の活性化、管理改善手法の習得、標準化、基準化の推進、製造技術、製造方式の水準向上、管理水準の向上を確認し推進を計ることが出来る。しかしその効果は、と反省してみると部門間の協調、マンパワー等種々の問題が介在されるが、製造部門の第一の使命である人、設備、材料を有効に活用し、生産活動の中で求められる、Q(品質)、C(原価)、D(納期、量)を達成し、生産性向上に努める事、すなわち最小コストで最大の利益を上げる事であり、これはIE活動の目的とも言えます。また、A.P.A活動の導入により製造部門にIE活動を定着、発展させ、定量的効果に加え定性的効果を生み出す事こそ企業人、または生産人としての役割であると認識しておる一人であります。

### あとがき

今日に於ける企業活動は、市場構造の変化を迅速にとらえ、ビジネスリスクを最少におさえるための手をタイミング一に打つ事こそ、生き残る戦略の一つであると思料致します。従って企業活動の一貫である、生産構造とそのシステムに就いては、時代に即応可能な変革すなわち、①多品種少量生産方式、②生産リードタイムの極限的短縮、③在庫の減少、④個別的な生産性向上、⑤品質保証と品質特性の明確化、⑥C.A.D/C.A.M/C.A.T、⑦下請協力会社の活性化、システム化、等々、中長期経営戦略として位置づけ、答えを出すこそ次世代に対する責務であると考えております。大変拙文にて紙面を汚すことになりましたが、ご判読いただければ幸いに存じます。最後に、各界でご活躍の校友諸兄の発展をお祈りいたします。

(電気4回卒)



**Clarion**  
最新のエレクトロニクス技術でつくる  
製品群。  
暮らしにうるおいを与える、  
信頼のブランド・クラリオン。

●カラオケ ●厨房・住設機器 ●パソコン無線 ●カーエアコン、他

# 同窓会・支部だより

## 写真部設立30周年記念

村山 誠

昨年と今年、母校を訪ねる機会を得て、郡山と母校の発展ぶりをまのあたりにし、嬉しく感じました。

学生時代、「写真部に席をおき、青春を謳歌したなかしさから『クラブ創立30周年記念』にはせ参じたのか昨年で、OB会なるものを発足させようということになりました。何の因果か、会長に選ばれました。

総会が2年に1回(次回は58年秋の予定)行なわれることになっています。

卒業以来16年余が過ぎましたが、時々、先輩や同期またはたのもしい後輩達と会い、母校を思いおこしながら、新潟の地で元気にやっています。

写真は30周年記念のときに、在学生諸君とともに撮したものです。(57年11月記)

(建築14回卒、新潟県卷土木事務所)



## 建築12回卒、同期会

小清水 貞夫

58年4月23日、郡山研修会館で開催。谷川・師橋・外山・黒田の4先生と同期生35人が参集。足立・田嶋の両先生及び故春山先生の息子さんも特別参加。卒業以来の会は大盛会。北は札幌、南は沖縄から参集、深



夜まで飲みかつ語り、昔とあいも変わらず、進歩のない事を確認。当日は昼に母校を訪ねてその発展ぶりに驚き、翌日は下宿を訪ねたり、市内を見物する組とゴルフを楽しむ組と二手に別れましたが、一同5年後に同

時期同地に再会することを約して散会。この会を期に、技術・情報の交換が盛り上る事を望む次第です。

(建築12回卒、構造計画研究所)

## 「歯車会」懇親会

瀧口 武志

34年4月の機械工学科入学生を中心に、入学2年目に結成した「歯車会」が、今年で卒業後20年目になるのを期に、吉沢・一色・柳沼先生をお迎えし、5月15日、新緑に榮える上野公園の瀧松亭で懇親会を催しました。当日は、北は釧路から南は四国までの在住者を含め、総員27名の盛会になりました。母校で専任講師をしている同輩の中村氏が出席し、工学部のあゆみをスライドにより披露していただき、おかげで現在の工学部の状況をつぶさに知ることができ、母校に殊更想いを馳せる気持になりました。来年は11回卒業生が工学部祭に招待されることを知り、その機会をより発展させるため、次回はその日に歯車会を催すことに全会一致で決定しました。次の幹事は明城幹夫、中村泰三、橋本耕吉の各氏に決定し、来年を楽しみにしています。

(機械11回卒、徳山曹達(株))



## 郡山市役所桜門会25周年記念

木村 圭二

日本大学郡山市役所桜門会(会長、太田雄八郎・土木3回卒)(会員187名うち工学部校友151名)は、去る58年5月14日郡山市農協会館において、結成25周年を祝い記念事業を行いました。



まず日本大学文理学部教授、遠藤幸雄先生の「リーダーの役割」の講演が行われ、多数の会員の方々が真剣に聴講されました。つづいて高橋郡山市長はじめ広川工学部長、武田工学部校友会長等多数の来賓の方々の出席を得て式典が行われ、その後工学部吹奏楽部25名による校歌等の演奏により祝賀会に入り、民謡歌手の根本美紀とともに、会員多数が自慢のなどを披露し、盛大に記念事業を終了しました。（建築3回卒）

## 支部等の総会

### ○東海支部総会（第10回）

58年7月9日(土)  
名古屋市 ホテルキヤッスルプラザ  
参加会員 約40名  
本部から 太田雄八郎参事  
＊ 支部役員は再選

### ○九州支部総会（第4回）

58年7月15日(金)  
福岡市 城山ホテル  
参加会員 約60名  
本部から 武田仁幸会長、小栗治男理事  
来賓 中野富士雄教授ら7名  
＊ 支部役員は再選

### ○北海道支部総会（第10回）

58年7月16日(土)

札幌市 全日空ホテル  
参加会員 約50名  
本部から 武藤貞泰副会長、菊池光子参事、後藤尚監査、橋本亮評議員  
来賓 蓬田和夫教授ら6名  
＊ 支部役員が交替  
○香川県アカシヤ会（第3回）



58年7月16日(土)  
高松市 わたや旅館  
参加会員 約35名  
本部から 武田仁幸会長  
来賓 片山将道教授ら10名  
＊ 徳島の岡久甫(機10回)、愛媛の松波清武(土13回)の両君も出席。来年はぜひ四国支部を結成したい。

谷久嘉典

(土8回)

## 校 友 短 信

(校友会の事務局へのお便りや、連絡などから)  
(無断で掲載いたしました。ご了承下さい。)

### 土木工学科

◆岩本 昭 (16回卒、株熊谷組、青土ダム作業所)  
ロックフィルダムの現場で働いています。同業者の方とお会いしたいものです。

(58. 5. 12受)

して勤務して、6年目を迎えようとしています。食品機械の販売・納入検収・メンテナンスを主な業務としています。共産圏を含む全ヨーロッパがテリトリーですが、イタリアへの出張が多く、最近はサウジアラビアへも行き、貴重な体験をしてきました。

パイやデニッシュペストリー、クロワッサンを自動生産するラインがすでに30ラインほどヨーロッパで稼動しています。そのほかに、日本で饅頭を作る機械が各国の民族食の大量生産に使われています。

校友会報は、毎号、実家から転送されて来るのを読んでいます。帰国した折には、北桜祭の時にでも、母校を訪れたいと、女房と娘(3歳)と共に夢をふくらませています。(Rheon Automatic Machinery GmbH 勤務)

(58. 5. 9受)

### 建築学科

◆西尾 功 (13回卒、防衛施設宇)  
一昨年秋、熊本から東京に戻ってきました。昨年は理工学部で公務員希望者に対し、各省庁の方々に混って我が宇の説明会に行ってきました。

(58. 4. 18受)

校友会報は、毎号、実家から転送されて来るのを読んでいます。帰国した折には、北桜祭の時にでも、母校を訪れたいと、女房と娘(3歳)と共に夢をふくらませています。(Rheon Automatic Machinery GmbH 勤務)

### 機械工学科

◆三橋知弘 (14回卒、飛島建設株連ダム作業所)  
堤体積 484,000m<sup>3</sup>の重力式ダムの工事にたずさわっています。建設省中部地建の発注です。

(58. 5. 10受)

### 電気工学科

◆細谷高彦 (24回卒、レオン自動機㈱)  
ドイツのデュッセルドルフ市の現地法人の駐在員と

卒業してすぐ設備会社へ就職し、その後、県庁へ勤務、今年7月23日オープンの浅虫水族館に内定しました。青森県内の工学部校友会の集まりを開けることを願っています。

(58. 3. 19受)

# 白夜の北欧

小栗治男



昭和57年度の日本大学短期海外派遣研究員として、出張の機会を与えていただきましたので、昨年の夏休みも間近かった7月5日から約3ヶ月間北欧を巡ってきました。出張の目的は、建築材料の気象作用に対する抵抗性ということであったので、気象条件の違う各国を歩きその土地の建築物を見るところでした。

旅の概略は、ヨーロッパ、アメリカ、カナダなど11カ国で、北緯35~65度の間にある28都市であった。改めて地球儀を見ながら旅程を追ってみると、アンカレッジ経由でロンドンに入り、パリからヨーロッパ大陸を列車で北上しながら各国を巡り、ドイツの北端キルからオデンセを通じて北欧を訪れた。オスロから一路アメリカ東海岸に飛び、シカゴ、カルガリ、バンクーバーから西海岸の都市を南下して、ロサンゼルスを最後に9月24日無事帰国しました。

既に工学部広報(№99)、建築学科の創建51号に書いて重複している部分もあるが、ここではスカンジナビア三国について述べてみます。この三国は高い緯度にあり、オスロ、ストックホルム、コペンハーゲンは北緯55~60度で、年平均気温が各都市とも4~8℃となっており、東京、仙台、福島、小名浜の11~15℃より低く亜寒帯に属している。短かくて涼しい夏と、長い厳寒の冬があり、冬には雨量の多い海に面した地方と乾燥する地方の二通りに分けられ、厳寒に耐えられる



木造教会

る松などの針葉樹林が広がっています。

8月下旬における気候は肌寒く、コペンハーゲンの近郊にあるハムレットの舞台となったクロンボル城や、日本の皇族の紋章も飾られていたフレデリスクボル城では、大雨にあい青空になった日は少なかった。特にノルウェー南西部にある同国最大の港で、オスロに次ぐ都市ベルゲンに行く海拔1200m付近では、列車の窓から直ぐ雪化粧していた山々が見え寒々としていた。

ノルウェー第一の景勝地ともいえるハルダンゲルフィヨルドの一番奥にある保養地ウルヴィックの村は閑静なところで、列車、船、バスと乗り継ぎホテルを見つけたのは夕方であった。このホテルは木造二階建て、静かな美しいフィヨルドに面しており、部屋も広く清潔であった。食堂では、同行した機械工学科の中村先生と私の二人の日本人のために君が代で迎えてくれた。また日本の音楽をいくつか演奏してくれ白夜の静かなフィヨルドを眺めながらの食事は、北欧を訪れたことの実感があった。

この地方の年間の降水量は、ベルゲンと同じく1900mm以上あり、日本は雨が多い国といわれるが約2倍になっている。このため森林に恵まれており、地方では木造の建物が多くなった。日本の繊細な木造住宅とは一寸違った荒けずりのようであり、床が高く屋根勾配はきつく、窓が小さくて開放感は味わえないが、テラスなどは十分広く取っており、短い夏を精いっぱい楽しもうとしていることが感じられた。



丸太積の木組

オスロ郊外にある伝統的建築物をひとまとめにしてある野外博物館では、この国の生活様式を垣間見ることが出来た。1200年頃建造されたという木造教会(ステープ)や、日本の校舎造りを思わせる豊富な木材を使った丸太積の住いを見た時、レンガ、石、コンクリートの住宅とは違う木のぬくもりを感じた。これらの建物の屋根は、柿板葺で厚い小羽板を使っており、寒さの厳しい地方の特色が出ているようにみられた。

(建築学科7回卒 工学部専任講師)

# CAMPUS

mini MEMO

## ◆日本大学大学院工学研究科だより

57年度、次の3人に工学博士の学位を授与。  
長部謙吉：建築における追創造的研究 57. 6. 25  
大内一雄：建築計画における人体計測の応用に関する研究 57. 12. 24  
引地東一郎：サイクロン分離器の分離限界粒子径に関する研究 58. 3. 15  
大内氏は現在工学部助教授。引地君は機械20回卒、大学院工学研究科の3回修です。

## ◆校友の母校での教員

昭和58年4月1日付、昇格。  
専任講師 建築学科 渡沢正典（14回卒）

## ◆鳥羽重幸先生御逝去

電気工学科の鳥羽重幸先生は、昭和58年6月17日、白河市の病院で逝去されました。享年53歳でした。鳥羽先生は電気1回卒で、卒業後の昭和28年4月から本学に勤務、多くの後輩を薦陶されました。創立もない校友会の副会長もされて盡力されました。ご冥福をお祈り致します。



## ◆高坂・宗像氏が講演

両氏は在学生に対して、次のような講演をしました。  
新入生歓迎講演会（4月7日）

### 「自然環境と人間関係に学ぶ」

高坂林夫氏（専化1回・化1回卒、山形大学工学部助教授）

### 就職講演会（6月8日）

#### 「産業界の現状および今後の産業人に求められる資質について」

宗像大三路氏（電4回卒、クラリオン㈱常務取締役 生産本部長）

## ◆教養講座は11年めを迎える

①教養豊かな人間の理想像を、卓越した知性との密接なふれあいのなかに求めていきたい。②人文・社会・自然科学の諸分野にわたる広い視野を設定したい。

このような趣旨のもとに、各分野の第一線の人の講話をきく教養講座は、今年で11年めを迎えた。この講座は、広く市民にも自由に開放され、多くの人々に感銘を与えていた。

昨年度の講師は、曾野綾子、団伊玖磨、福井謙一、池田敬子その他の諸氏、今年度は、池田満寿夫、猪谷千春、中山千夏その他の諸氏。

今後のスケジュールなどは学部に聞いて下さい。  
電話は0249-44-1300代です。多くの会員の聴講を希望します。

## ◆インカレで総合6位

昭和58年度東北地区大学総合体育大会（インカレ）は6月末に、福島市を中心に行なわれた。工学部の入賞は次の通り。

総 合	6 位
空手道	団体 優勝
	個人 宮本昌尚（3位）広瀬敷治（4位）
サッカー	Bブロック 準優勝
軟式庭球	3位
剣 道	個人 前田清二（優勝）吉成進（3位）
水 泳	個人 八重田淳（100m自由型2位）
陸 上	小林憲次（砲丸投3位）石塚伸二（ハンマー投4位）
弓 道	団体 男子2位
	個人 昆明子（女子3位）

## ◆ポートの漕艇庫を新築

58年4月、安達郡東和町木幡の阿武隈川畔に竣工した。鉄骨造2階建（延面積152m<sup>2</sup>余）で艇庫と合宿設備がある。

阿武隈漕艇場には、1000mコースがあり、県内各大学の合宿も隣接してつくられている。

## ◆マレーシア科学大学から來訪

マレーシア科学大学の学生ら34人の研究視察団が、4月19日に工学部を訪れた。施設、実験室などを見学し、バドミントンなどの親善試合も行われ、学部側と交歓した。夜は研修会館に一泊した。 (た)

## 噂のページ

### ◆西村孝君（土木13回卒）

昭和45年から母校に勤務し、現在、土木工学科で助教授をしておられます。日頃の研究がみのり、58年3月15日に、「循環式活性汚泥法による都市下水の脱窒素・脱リンに関する実験的研究」で、日本大学（理工学研究科）から工学博士の学位が授与されました。

（事務局）

### ◆栗原稔・井出健司・久野清君

58年4月に行なわれた統一地方選挙で、栗原稔君（土木14回卒）は埼玉県議会議員（自民党）に、井出健司君（土木19回卒）は今治市議会議員に、久野清君（建築21回卒）は郡山市議会議員に当選されました。3人とも2期目です。

（事務局）

# 昭和59年度入学試験

日本大学工学部

## ◆入学試験

### 入試期日（試験日）

昭和59年2月16日(木)

土木工学科・建築学科・機械工学科・

電気工学科・工業化学科

試験場 郡山試験場（工学部校舎）

東京試験場（日大経済学部校舎）

入試科目 外国語：英語B

数学：数学Ⅰ・ⅡB・Ⅲ

理 科：「物理Ⅰ・Ⅱ」「化学Ⅰ・Ⅱ」の

2科目から1科目選択

募集人員 約600名

## ◆推薦入学

普通・理数科：（資格）指定した高校の普通科・理数科を昭和59年3月卒業見込で学業成績は評定平均値の平均が3.8以上の者。

（推薦人員）一高校あたり2名以内

工業課程：（資格）指定した高校の工業課程を昭和59年3月卒業見込で学業成績は評定平均値の平均が4.0以上の者、出願できる学科は本人の履修した専門学科に関連のある学科に限る。

（推薦人員）一高校あたり土木、建築、機械、電気、工化、各学科2名以内

出願期間：昭和58年11月4日～11月12日

試験日：昭和58年11月21日(日)

英語・数学の参考試験、作文及び面接を行ふ。

募集人員：約215名

問合せ先：日本大学工学部入試係  
(電話0249-44-1300)

## 〔事務局便り〕

- 11ページにありますように、統一地方選挙で首長や議員になられた方が、もっとおられるように思います。事務局にご連絡下されば、会員に披露してバックアップしたいと考えています。
- 先の参議院議員選挙の比例代表区で、谷本義君（専土1回卒）が社会党の名簿登載者（11位）になりましたが、当選には至りませんでした。次回の奮闘に期待したいものです。
- 今年4月の総会は、東京で開きましたが、記事にもありますように、盛会でした。ご盡力下さいました東京支部関係の皆さんに感謝いたします。
- 工学部校友会員名簿（22,156名）を57年10月に発行しました。残部が少しありますので、希望者には1部2,500円（郵送がない場合は2,000円）で配布しています。至急申し込んで下さい。
- 名簿の登録事項に変更が生じましたら、直ちに事務局へ連絡して下さい。電算機に入れ替えて、最新の情報を入れておくことにしています。
- 地区ごとや、クラブOBなどの集まりを催すときは、事務局に事前に連絡して下さい。可能な限りのお手伝いはしたいと思っています。
- 「母校を訪ねる会」は10月23日に行ないます。8～10回の卒業生を対象としますが、それ以外の方も参加されて結構です。（事前連絡をお願いします。）
- 校友会報に掲載する広告について、会員の企業からの協力をお願いします。くわしくは、事務局に連絡して下さい。
- 校友会の振替口座番号が郡山5-1990に変更になりました。

## 北海道支部

支部長 長谷川清廣(土14回)丸松館建設㈱  
事務局長 松久房夫(土19回)札幌市下水道局

## 東京支部

支部長 古村和夫(土3回)古村建設㈱

## 東海支部

支部長 平野 卓(土3回)東京エンジニアリング㈱  
名古屋支社  
事務局長 河野 叶(土6回)福徳建説㈱

## 九州支部

支部長 矢俣敏之(建8回)㈱大林組 福岡支店  
事務局長 陶山順一(建15回)㈱陶山建設

## 校友会報第42号

発 行 所 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原上  
郵便番号 979-66  
電話番号 郡山(0249)44-1327  
振替口座番号 郡山5-1990

発 行 日 昭和58年9月1日

発行者代表 会長 武田仁幸  
編集者代表 事務局長 佐藤光正